

メープルレター（80）

新年

明けましておめでとうございます。新年のご多幸と健康をお祈り申し上げます。本年も宜しくお願いいたします。

去年の（もう年が変わってしまったのですね）クリスマスには、目が覚めるような紫の木蓮の花が咲き、美しい姿でサロンを飾ってくれました。嬉しい神様の贈りものかもしれません。12月半ばのドカ雪で隣の木蓮の枝がバラバラ庭に落ちてきたので、お稽古に使ってくださいと、生徒の一人が20本ほどの枝（ほぼ枯れ枝のように朽ち果て眠っていました）を抱えてやってきました。お稽古にやって来た数人の生徒に分け、残った3-4本をサロンに置いて1週間後、蕾が開きはじめました。寒い真冬に、春の夢をみているようでした。

クリスマスは二回に分け、イブに娘一家とランチ、義理の息子たちとはクリスマス（25日）にディナーをしました。娘一家は、ランチで美味しい食事の後、オタワの義実家に向かいました。英語系の義実家ではクリスマスは一大行事で、25日にクリスマスプレゼントの交換を家族全員ですることになっています。一人一人が全員に贈り物をするので、4時間はかかるということでした。ここではこれが平均的なようです。我が家は、贈り物交換は、たった10分。あげたり、もらったり、開けて喜んだりするだけで、すぐに切り替え、フォアグラとシャンペンでお祝いし、それから食事が始まります。2歳10か月の孫娘は、フォアグラを口にいれると、

「これは美味しい（Ça, c'est bon）」

というと、大満足。更に鴨のリエットに手を出し、

「おいしい（c'est bon）」

と大喜びでした。始めて味わう、クリスマスの大人の味でしょうか。こうして、クリスマスは始まりました。娘一家の帰った後、マダム田中は、次の日のディナーの下準備にかかりました。娘一家の食事は大きな寿司桶を除くと、料理はフランス風になります。今年は、これに中華風の北京ダックも加え、バラエティーに富んだ食卓になりました。25日の食事は人数が多いのと、孫たちの好みに合わせ和風を中心に15種類ほどの料理のビュッフェスタイルの夕食にしました。

ところが、

「コロナ陽性だから、いけない」

と義理の長男から寸前に電話がはいり、7人がキャンセル。義理の次男は前日母親とイブを祝い、クリスマス当日は父親ということになっていました。ところが！、

「どうしたの、お嫁さんは？」

嫁がいないのです。

「今朝、具合が良くないっていうので、検査したら、コロナ陽性。他は全員陰性なんだ。で、コロナの兄貴の所に置いてきた。高齢の親にうつしたらいけないし。今夜は嫁なし。」

「えー！どうするの、この料理。」

この夕食の後は、長男の所に泊まるという次男に、料理の一部を長男に持って行ってもらうことで、一件落着はしたものの、この3日間、飲まず食わずで頑張った料理は一体何だったのかと、深いため息がでるのです。それでも、次男一家と楽しく時は過ぎていきました。

「和子、木蓮の花きれいだね。どうしたの、これ？」

「ドカ雪で落ちてきた枝をいけたら1週間で突然蕾が膨らんできたのよ。」

「この部屋の温度があっているんだよ。眠りから覚めてしまったんだ。覚めない木もあるからね。普通は、冬眠して春先に温度が上がると咲くんだ。一定期間氷点下の温度で過ごし、その後、温度が上がり、光があたると咲くんだ。僕の温暖化に耐える木の研究では今、この定理でマイナス2度の冷凍庫で千本近い樹木の苗が眠っているんだ。時期を計算して、研究員を北米各地に派遣して、それぞれを植えて結果を研究していくんだ。」

草木の極寒での冬眠と外部の温度、自然はこうして回っていくのだと突然咲いた木蓮の花をみながら、マダム田中は目から鱗でした。

次男に、日本滞在中に姪から聞いた、神社仏閣を取り囲む、火事に強い銀杏の木の話しをすると、

「そうなんだ。こっちでも山火事対策に使い始めたんだ。日本の銀杏とは違うけど、その仲間の木を山と山の間で植えて飛び火対策をしはじめたんだ。」

次男の話しはつきません。

「ところで、銀杏の実って、臭いって聞いたけど本当？」

「本当。臭一つつ！ふんぷんよ。」

笑いこける次男と15歳の孫（男の子）。

「やっぱりね。ここでは、オスの木しか植えないんだ。メスを植えると実が臭いらしいから」

「でも実の中は食べると美味しいのよ。処理が面倒だけど。」

この頃は、我が家の一角でもちらほらと植えられるようになったカナダの銀杏の未来はどうなっていくのでしょうか。こうして夜は更け、次男は、ドリトル先生からのクリスマスプレゼントの二本の日本刀と長男への重いドギーバッグを下げ、その夜の宿泊先の長男の家に向かいました。

ところが、

「お義母さんが、コロナで寝込んだわ。早めにモントリオールに帰ることになった。」

と娘のメッセージが入りました。モントリオールに着いた途端に婿殿が、今度はコロナで寝込むことになりました。どこを向いてもコロナに振り回されたクリスマスでした。

クリスマスから大晦日までは、毎日、一人二人と世界各地から来客がありました。やがて、大晦日。最後の来客は、猫二匹と亀一匹。フロリダに発つ長男一家からのお預かり物です。いつもあずかる、地中海クラブのバカンス気分のリラックスした時を過ごしに来ていたブランド猫と思春期のまだやんちゃ盛りの新参者の猫。全く気の合わない、歯をむき出していがみ合うこの二匹の猫のヒステリーをどう仕切っていたものか、マダム田中の新年のスタートは工夫がいらそうです。今年は、いったいどんな年になるものやら、ふーっとため息がでております。ドリトル先生ですか、ドリトル先生は皆がお休みの年始に、頼まれて動物緊急病院のアルバイトの仕事に出かけております。

そうそう、クリスマスは、温暖化のせい、雪はなく、グリーンクリスマスでした。新年は温度が急激に下がり、冬眠に入った方が良さそうな雰囲気です。

今年も宜しく願いいたします。